



SFS通信

平成27年(2015)6月30日発行
 日本ボーイスカウト新潟連盟
 スカウトフェローシップ委員会
 編集長 杉山 剛
 〒959-2658 胎内市西条602-11
 TEL & FAX 0254-43-4879
 事務局 〒951-8052 新潟市中央区下大川前通4の町
 TEL 025-229-5454 FAX 025-229-5446

SFS委員会委員長会議(4月5日)報告

(1) 平成26年度活動報告

SFS通信4回発行(6/29:34号 9/11:35号 12/20:36号 3/15:37号)
 SFS委員会全体集会(新潟市越前浜「夕暁の宿 愛幸」)
 会員11名 来賓お二人(井上理事長 本間県コミッショナー)
 PR活動2回(6/29BSラリー新潟・鳥屋野潟公園 9/07CS・BVSラリー 新発田・真木山公園)
 諸会議(委員長会議2回 役員会3回)
 杉山晃氏葬儀(10/22)

(2) 平成26年度会計報告

支出額 65,009円 (SFS通信発行経費 45,509円 交通費19,500円)

(3) 平成27年度活動報告

SFS通信4回発行(7/:38号 9/:39号 12/:40号 3/:41号)
 SFS委員会全体集会(中越地区担当)
 PR活動2回(6/28BSラリー長岡・悠久山公園 9/13CS・BVSラリー 新潟・鳥屋野潟公園)
 諸会議(委員長会議3回 役員会2回)

(4) 平成27年度会計予算

新潟連盟予算額 70,000円

(5) 平成27年度SFS委員会役員

委員長	星 栄一	長岡1	幹事	大山 恵右	糸魚川1 (SFS未加入)
副委員長	藤塚 大造	新潟7	々	小林 敏勇	長岡1
副委員長	杉山 剛	中条1	々	金井 勝代	小千谷1
(通信編集長)			々	佐藤 英行	中条1
事務長	斎藤 眞憲	新潟11	々	西山 好秀	長岡1
会計係	々	々	々	杉山 和代 (新任)	新潟16
監事	鈴木 正	長岡3	相談役	高橋 剛	新発田1
			々	遠藤 安一	長岡1

(6) 星委員長挨拶

SFSの年間活動は、カブ・ビーバーラリーやボーイラリーの際にボーイスカウト運動のPR活動や入隊勧誘と、各地区でのBS運動のPR活動、また毎年10月に各地区持ち回りで1泊のSFS全体集会をおこなっております。

SFS活動はSFS会員にとっても楽しい活動であってほしいと考えております。

SFS通信は、編集委員長の努力で年間4回発行しております。県連盟内の勝手広報の役目も果たしております。

SFS会員がいない団がいくつかあります。是非、隊指導者を引退された方や団委員の方は入会してください。SFS会員は永遠のスカウトです。入会手続きはSFS委員長まで連絡ください。

(7) その他

昨秋、全体集会報告でお送りした資料の中に会員名簿があります。その中に誤記がありましたのでご訂正ください。

幹事 鈴木 正氏の電話番号 0258-46-3924

県連理事会(4月5日)と県連総会(6月7日)より

金澤副連盟長:世界ジャンボリーを機会にスカウティングをより輝かせたいものだ。最近スカウトの活動を街中で見ることが何度かあった。より増えることが望ましい。

県生涯学習推進課長補佐 千野昌広氏:自然体験の多いほど自己肯定感が高い。BSの活動に期待している。

井上理事長:国も含め多くのお力で23WSJが開催できる。我々も準備を進めている。さらなる飛躍につながることを期待する。昨年のWB実習所(BS)開催は大きな実績としてとらえている。スカウトの為に指導者も研鑽をしなければならない。常に学ぶ姿勢が大切。自分の頭で考え行動し責任を取る...これを一人前の社会人と言うのでしょうか。我々BSの役割を再確認したい。

H27年度事業方針

“23WSJ、成功に向けてみんなで頑張ろう！”

“スカウト運動の基本に基づいて、より良いスカウトを育てよう！”

登録数(H26年度との比較)

団数	合計28団(-1)
	下越4(0) 新潟12(-1 佐渡1)
	中越10(0) 上越2(0)
隊数	合計91隊(-6)
登録数	総計918名(-107)
	スカウト数 合計483名(-64)
	指導者数 合計24名(-35)
	団委員 合計195名(-8)

スカウトの教育にはスカウト数が重要な要素です。県連1000人の目標を堅持し、日々の活動の工夫を重ねることしかありません。

表彰

かっこう章	大野 嘉彦氏 (新潟5)
隊褒章	55年綬 新潟第5団 VS隊
	45年綬 中蒲原第7団 BS隊
特別年功章	20年章 脇本忠敬(中蒲原7)
	渋谷豊幸(中蒲原7)

お詫び:本来なら受賞者のお写真を掲載させていただく予定でしたが、処理の途中間違えて消去したようです。申し訳ありません。

進歩委員会

H26年度での VS単章は0 BS菊章は4名
菊章スカウトは 山田晟司 神林佑輔
水澤佳暉 五十嵐啓人
(全員新潟15団!!!)

H27年度は進歩制度を意識した日常活動の啓発促進を図る。

新制服について

派遣団には6月に支給される予定です。
一般発売は8月中旬以降。記章類はまた規定変更か？
(配布されたカタログや日連HPを参照ください)
袖につける県連章のデザインが決定しました。

組織拡張委員会

今年度も広報講座IVを開く。(2月6・7日)
広報通信員を未登録の団へ...ご協力を願う。

指導者養成委員会

例年同様多くの研修会を開催する。
指導者の研鑽を期待する。



(山並みを背景に朱鷺・雪椿・稲穂・夕日をまとめています)

平成27年度の主な行事予定(案)

実施日	事業	場所
4月25・26日	GATレーニング	みつき沢
5月3・4・5日	WB研修所(BVS)	糸魚川幼稚園
6月7日	理事会・県連総会	新潟市クロスバル
6月14日	安全セミナー	糸魚川幼稚園
6月28日	ボーイラー	中越地区 悠久山
BS講習会 4月12日(下越)、7月5日(上越)、10月25日(中越)、11月14日(新潟)		
理事会 4月5日(新潟)、6月7日(新潟)、10月4日(長岡)、1月17日(新潟)		

実施日	事業	場所
9月13日	カブ・ビーバーラリー	新潟地区
10月10-11日	野外プログラム研修会(歌)	五頭連峰少年自然の家
2月6・7日	団委員・指導者講習会	広報講座IV
3月06日	ゲーム研修会	大畑少年センター
3月26・27日	救急法講習会	大畑少年センター

23WSJ情報

参加者

スカウト 小計 22名(男19 女3)

中条1・・・2 (内VS1)

新潟5・・・4 (内VS3)

新潟15・・・3

豊栄2・・・2

加茂1・・・1(内VS1)

西蒲原7・・・4

長岡3・・・3

長岡10・・・1

十日町1・・・1(内VS)

VS・IST 小計 2名

新潟5・・・1

小千谷・・・1

指導者 小計 5名

隊長 今井 浩二 加茂1

副長 小柳 真人 加茂1

副長 田中 哲郎 白根1

SC 岡本 学 豊栄2

SC 関川 憲司 阿賀野1

IST 小計 3名

JDT 伊藤 聡 新潟5

JDT 大関ゆかり 新潟5

IST 牧島 宏之 阿賀1

派遣隊の基本日程

派遣隊の訓練(長野と合同)

5月2-3日 合同隊集会(巻 入徳館)

7月5日 隊集会(妙高)

派遣団(派遣隊)の日程

7月28日空港出発～8月10日夕方空港帰着

7/29設営・開会式 8/7閉会式 8/8外国隊撤営支援

8/9見学小旅行(秋吉台-松下村塾-石見銀山-玉造温

泉-姫路城-伊丹空港→)

長野との合同編成

スカウト数定員見達のため長野連盟と合同隊を編成。

長野連盟から

副長 青木 桂子(松本6)

スカウト 9名

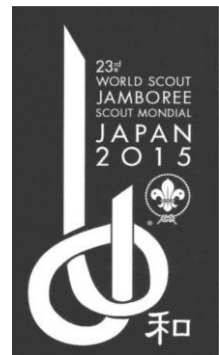
合計 10名参加

ホームステイ

ホームステイの対象国・・・

英国派遣団第50隊(ハンバーサイド連盟)に決定。

ハンバーサイド連盟は新潟連盟と永年に渡り交流を続けている連盟です。



以上総員32名です。

奉仕されるリーダーの方々、本当にご苦労をおかけします。有難うございます。

7月26日夕方新潟駅着～28日午前空港発
受け入れ家庭も決まりました。7月4日に説明会を開催します。

全国ORIZURUキャラバン

世界ジャンボリーでは平和祈念式典の一部として広島原爆の子の像へ折り鶴の奉納を行います。日本連盟では、その折り鶴を参加スカウトのみでなく日本全国の方にも折って戴こうとこのキャラバンを実施しています。(株)イオンの協力を戴き全国で展開します。新潟連盟はこの趣旨に賛同し、スカウト活動の素晴らしさも体験して戴く内容で、5月30日イオン新潟南店で実施しました。

参加者(奉仕者)

約40人の指導者と中蒲原7のスカウトたち。

SFS委員では

高橋(新発田1)藤塚(新潟7)南雲(新潟9)

杉山(新潟16)石田ご夫妻(黒崎1)

杉山(中条1)

活動内容

23WSJの紹介 折り鶴作成コーナー

BS体験コーナー

(ロープ・自然クイズ・世界の国旗)

県連PR

フェアトレード

信号塔(加茂1)

テーピーテント(阿賀野1)

PR成果

折り鶴の数・・・760羽と配布団扇の数・・・700枚

参加人数・・・760人以上

当日入団の申し込み・・・5名

さすがにイオンの集客力は高く、訪れる人波は絶えませんでした。

信号塔やテントを、狭い現場でかつ短時間の内に設営完了したり、促成チームでの各コーナー担当など円滑に楽しく実施されたのはさすがBSリーダー！！

全体の指揮をとられていたのは、渡辺副理事長と清水(新潟16)さんです。8時から16時半までお疲れさまでした。

長岡の季刊誌『リバーバンク レポート』の巻頭言として掲載されたものです。

季刊誌のテーマは“戦後70年「感謝！」そして・・・”。

真宗大谷派 願性寺 住職 井上法英 としてのご示唆です。

“共生ということ”

理事長 井上 法英(長岡3)

過日、京都・東山散策の機会を得ました。南禅寺を過ぎ東山中学・高校に参りますと、校門脇の石碑に「共に生きる」(金澤翔子書)とありました。

「共生」という言葉は最近よく使われ、よく聞きます。時にこの言葉を、一緒に仲良く生きていきましょう、という風な意味で使っているようですが、元々は仏教思想の深い意味を持った言葉です。

この言葉を知らしめたのは、建築家の黒川紀章さんといわれています。名古屋市の東海高校の出身で、在籍中の校長は椎尾弁匡(しいおべんきょう)師という浄土宗の著名なお坊さんでした。大正10年に『共生の哲学』という本を出されています。黒川さんは、この高校で共生と言うことを学び、自著『共生の思想』の中で、校長先生の言葉を紹介されています。

「一切は衆縁(しゅうえん)によって生ずるものである。万物は相関連して成り立っている。私共はこの原則に則って、一步一步と理想世界を建設していきたいと思う」と。

衆縁とは、たくさんのご縁、仏教でいう縁起(えんぎ)の思想です。関係存在、つながっているということです。植物・動物・そして鉱物のような無機物にも、ミネラルのような人間にとって重要なものがあり、そのどれ一つが欠けても人間は生きていくことができない。いのちは決して単独で存在するモノではありません。「私」の思いを超えた無限の因と縁のつながりの中に「私」のいのちはあるのです。

共生にはもう一つ、平等のいのちという意味があります。西洋思想では、人間は万物の霊長であるとします。人間至上主義です。人間が一番尊い、だから人間にとって便利で快適な生活のためなら、邪魔なものを雑草、害虫と呼んで平気で殺します。

仏教は違います。十方衆生(じっぽうしゅじょう)のあらゆるいのちは平等なのです。でも殺生しないと人間は生きてゆけないから、申し訳ないといって手を合わせ、「いただきます」と言うのです。

共生(椎尾師は『ともいき』とも読んでいます)というのは、縁起の法の中につながって生き、生かされている、平等のいのちを生きる、そしてその苦悩を共有し、主体化していくという意味があるのです。そういう共なるいのちというのが、西洋合理主義・二元論に対して新たな方向を与え、そうした見方、考え方によって、現代のさまざまな問題を超越していくことができるのではないのでしょうか。



<リバーバンクレポート編集人のコメント>

戦後70年！日本と言う国家が、戦争をせずに無事古希を迎えたことを喜びつつ感謝しつつ、来るべきまったく新しい時代を前に、私たちの立ち位置はどこにあるのか、一緒に考えましょう。これまでとは180度違う世界を作ること。行き詰まりを見せている西洋合理主義を超えて、文明のコペルニクスの転回を図り、「共生」の新しい地平を切り拓く「覚悟」。様々な格差拡大、財政破綻、細菌の逆襲、天変地異、サイバースペースをも含むテロや戦争の脅威などのリスクを最小限にすべく冷静に対処しながら、揺るがぬ意思をもって、「国民総幸福」の概念実現に向かい、日々一步一步、歩を進めていくべきかと思えます。

胎内市で行われた『読書好きの子供にするために大事なこと』(胎内市の教育を考える会主催)に参加しました。その中でBS指導者にとってもとても大切なことを伺いました。お伝えします。著者は「沈黙の春」で有名な方です。

センス オブ ワンダー

(の一部)

子供たちの世界は、いつも生き生きとして新鮮で美しく、驚きと感激にみちあふれています。残念なことに、わたしたちの多くは大人になるまでに澄みきった洞察力や、美しいもの、畏敬すべきものへの直観力をにぶらせ、あるときはまったく失ってしまいます。

もしもわたしが、全ての子どもの成長を見守る善良な妖精に話しかける力をもっているとしたら、世界中の子どもに、生涯消えることのない「センス・オブ・ワンダー = 神秘さや不思議さに目を見はる感性」を授けてほしいとたのむでしょう。

この感性は、やがて大人になるとやってくる倦怠と幻滅、わたしたちが自然という力の源泉から遠ざかること、つまらない人工的なものに夢中になることなどに対する、かわらぬ解毒剤になるのです。

妖精の力にたよらないで、生まれつきそなわっている子どもの「センス・オブ・ワンダー」をいつも新鮮にたもちつづけるためには、わたしたちが住んでいる世界のよろこび、感激、神秘などを子どもといっしょに再発見し、感動を分かちあってくれる大人が、すくなくともひとり、そばにいます。

多くの親は、熱心で繊細な子どもの好奇心にふれるたびに、さまざまな生きものたちが住む複雑な自然界について自分がなにも知らないことに気がつき、しばしば、どうしてよいかわからなくなります。そして「自分の子どもに自然のことを教えるなんて、どうしたらできるのでしょうか。わたしは、そこにいる鳥の名前すら知らないのに！」と嘆きの声をあげるのです。

わたしは、子どもにとっても、どのようにして子どもを教育すべきか頭をなやませている親にとっても、「知る」ことは、「感じる」ことの半分も重要ではないと固く信じています。

子どもたちが出遭う事実のひとつひとつが、やがて知識や知恵を生み出す種子だとしたら、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この

著者 レイチェル・カーソン

訳者 上遠 恵子 (新潮社)

種子をはぐぐむ肥沃な土壌です。幼い子ども時代は、この土壌を耕すときです。

美しいものを美しいと感じる感覚、新しいものや未知なものにふれたときの感激、思いやり、憐れみ、賛嘆や愛情などのさまざまな形の感情がひとたび呼び覚まされると、次はその対象となるものについてもっとよく知りたいと思うようになります。そのようにして見つけた知識は、しっかりと身につきます。

消化する能力がまだそなわっていない子どもに、事実をうのみにさせるよりも、むしろ子どもが知りたがるような道を切りひらいてやることのほうがどんなにたいせつであるかわかりません。

もし、あなた自身は自然への知識をほんのすこししかもっていないと感じていたとしても、親として、たくさんのかたちを子どもにしてやる事ができます。

たとえば、子どもといっしょに空を見あげてみましょう。そこには夜明けや黄昏の美しさがあり、流れる雲、夜空にまたたく星があります。

子どもといっしょに風の音をきくこともできます。それが森を吹き渡るごうごうという声であろうと、家のひさしや、アパートの角でヒューヒューという風のコーラスであろうと。そうした音に耳をかたむけているうちに、あなたの心は不思議に解き放たれていくでしょう。

雨の日には外にでて、雨に顔を打たせながら、海から空、そして地上へと姿をかえていくひとしずくの水の長い旅路に思いをめぐらせることもできるでしょう。

あなたが都会でくらしているとしても、公園やゴルフ場などで、あの不思議な鳥の渡りを見て、季節の移ろいを感じることもできるのです。

さらに、台所の窓辺の小さな植木鉢にまかれた一粒の種子さえも、芽をだし成長していく植物の神秘について、子どもといっしょにじっくり考える機会をあたえてくれるでしょう。

“花燃ゆ”に因んで

団委員長 斎藤眞憲(新潟11)

大河ドラマ“花燃ゆ”は豪華出演者を揃えてなかなか視聴率も高そうである。しかし、私は残念ながら放送時間帯は既に寝室に追い込まされているのでテレビを楽しむ時間はない。しかし数年前萩を訪れ、松下村塾を見学した頃の事を思い出しながら楽しんでいる。

体調の加減で好きだった散歩も出来ず、仕方なく手元にある江戸中期から幕末を取り扱っている様々な歴史書を読み返し、面白い“落首”に出会っている。

“落首”は辞書によれば、「風刺、嘲弄、批判の意を込めた匿名の戯歌(ざれうた)」と解説され、「封建時代に政道批判の手段としてしばしば行われた」とある。実際その出来映えの見事さに唖ってしまう。実に庶民の心で見事に為政者を揶揄、批判していて痛快この上もない。作者は余程学問を積み、教養豊かでしかも諧謔性に富んだ人達なのであろう。

中でも、殆んどの人がご存じなのが、「太平の眠りを覚ます上喜撰(蒸気船)たった四はいで夜も眠られず」であろう。ペリーが四隻の軍艦を率いて浦賀来港時の幕府の混乱状態を詠んだものだ。上喜撰とは上質なお茶の事である。煎茶を飲むと夜寝れなくなると言うことが今でも言われているが、当時もそうだったのかな？上質の煎茶を四杯も飲んだ事と船四隻をかけている訳だ。船は、「一パイ、二ハイ」と数える数え方もある。

幕府はペリーの開国要求に対して日米和親条約を結び、次々に日英、日露、日蘭和親条約を締結した。相手と戦う国力も無いのだから当然の帰結でもあった。上述の落首は当時の老中・阿部正弘の軟弱外交を茶化す巷の人々の声である。彼は、備後福山城主であり、伊勢守を名乗って

いた。この阿部正弘を揶揄する落首は数も多い。

「あべ(阿部)川をペロリ(ペリー)となめて

上喜撰」

あべかわ=黄粉餅

「阿部川は名物ほどの風味なし

上喜撰には下卑たお茶菓子」

「阿部川は黄粉をやめて上喜撰」

「いにしへの蒙古の時(蒙古襲来)とあべこべで

波風立てぬ伊勢の神風」

この時代から少しさかのぼるが、田沼意次と松平定信に関する落首も楽しい。

田沼意次は、池波正太郎の「剣客商売」に登場する秋山小平のご鬣筋で、將軍家重の側用人として全盛時代を築き、賄賂政治として評判が悪い。子息の意知が刺殺されてから威勢を失い、その改革に回った松平定信(白河藩主)に取って代わられるが、両者を揶揄する名作も数多い。

「安永の安く永いは米と銭

塩の高いは辛い世故」

(安永と改元してから米、銭相場は下

落したが、塩は高騰した)

「田や沼やよごれた御代を改めて

清くすむる白河の水」

「世の中にかほど(蚊)うるさきものはなし

ぶんぶぶんぶ(文武)と夜も寝られず」

「白河の清き流れに住みかねて

元の濁りの田沼恋しき」

庶民と言う者は、誰が為政者になっても口差がなく、要求の多いものである。